

AITDAC ES9038PRO、ES9018S と他社機比較

項目	AITDAC ES9038PRO	AITDAC ES9018S	ES9038PRO使用他社DAC
1 ジッター抑圧方式	AIT独自のAFPC/HOLD 音声dataの改ざんは無く 十分な抑圧効果 APCはジッタークリーナー と同程度の効果	AIT独自のAFPC/HOLD 音声dataの改ざんは無く 十分な抑圧効果 APCはジッタークリーナー と同程度の効果	AD1896、SRC4192、AK4137等SRC使用の場合 音声dataはジッターを含んだ改ざんが あるので音質改善効果は少ない。 またES9038のジッター抑圧機能使用の場合 lock外れのため高音質のLowest、NBW等に 設定できない。 またPLLを用いたジッタークリーナーは AITのAPCと同程度の抑圧効果だが 音声dataの改ざんは無い
2 ES9038/ES9018 のBW設定	S/PDIFを含んだ全入力 最良音質の NoBandWidth/Lowest (sync/async) のみでかつ音切れは発生しない	S/PDIFを含んだ全入力 Lowest で音切れは発生しない	少なくともS/PDIFでは NoBandWidth/Lowest動作は困難 I2S入力でも場合によっては音切れ または異常音発生
3 使用DACチップ	2個	2個	1個以上
4 最大fs入力信号	PCM=384kHz DSD=24.576MHz(512)	PCM=384kHz DSD=24.576MHz(512)	PCM=384kHz(一部768kHzあり) DSD=12.288MHz(一部24.576MHzあり)
5 PCM=>DSD変換	DSDを含む全入力 DSD128/256/512/1024	DSDを含む全入力 DSD128/256/512	PCによる変換が主(512迄) 一部内臓で128/256あり
6 I/V方式	高性能OPEアンプによる (SR=50V/μs、Iomax=±45mA) 合計16回路 4つの差動合成回路としている。	高性能OPEアンプによる 合計8回路 4つの差動合成回路としている。	合計4回路程度と思われる 差動合成は2つ程度 *ディスクリートオペアンプ使用は 必要なデバイスが入手困難なため 十分な性能を確保できない。
7 LPF部	出力までfullbalance構成 つまり同じ回路がL/R、P/N の4系統となっている	出力までfullbalance構成 つまり同じ回路がL/R、P/N の4系統となっている	殆どがunbalance構成 つまりL/R 2系統のみ
8 入出力	全端子のCOMを含め絶縁	全端子のCOMを含め絶縁	一部端子のみ絶縁
9 電流駆動	可能	不可能	不可能
10 リモコン	可能	不可能	可能
11 HDMI接続	LVDSレシーバー、isolator内臓 Psaudio 配線又はAIT配線 切り替え可能	LVDSレシーバー、isolator内臓 Psaudio 配線又はAIT配線 切り替え可能	?? Psaudio 配線が主
12 I2S(digital audio)接続 USB,HDMI入力	DSDのL/R入れ替え可能 DSDのL/Rを正しくすれば PCMのLRCK,DATA,mclk周波数 ,DSD/PCM、fsは自動検出する。 isolator内臓	DSDのL/R入れ替え可能 DSDのL/Rを正しくすれば PCMのLRCK,DATA,mclk周波数 ,DSD/PCM、fsは自動検出する。 isolator内臓	DSDのL/R入れ替えはPCの設定が必要
13 最大入力数	2×同軸、2×光、USB、HDMI	2×同軸、2×光、USB、HDMI	各社仕様による
14 電源OFF時状態記憶	有り	無し	有り
15 出力レベル可変	2dB毎に可変 -20dB以下は音質劣化	無し	可能が多いが -20dB以下は音質劣化
16 ヘッドルーム	有り 無いと記録レベルが高い コンテンツ再生時音質劣化	有り	殆どの機種は無し
17 性能	S/N(A)≥120dB, THD+N<0.0005%以下	S/N(A)=117dB, THD+N<0.0005%以下	